

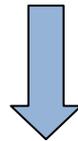
報告書

第8期インターン生

ニックネーム： わーくん

1. 本研修の目的

本研修に参加した**当初の目的**は、今回大震災で被災した福島を見て、今まで知らなかった福島の良さを知り、それを発信していくこと。



二週間で福島の良さを把握し、
発信することは**不可能**なのではないか？

今回の研修で仕事と作業の違いを**明確**にするという目的

*作業＝指示されるもの

*仕事＝自分なりに考えて探し出してくるもの

最終的には**なりたい自分**に少しでも近づく

仕事（または作業）で自分の役割を知り、自分自身に**自信**が持てる

*具体的には各実地研修で実際に行ってきたことを「仕事」と「作業」に分類

2. 実地研修

実際に行ってきたことを「仕事」と「作業」に分類

2-1. 東山温泉観光協会&原灌 <平成23年7月26~28日>

作業：デスクワーク（大熊町避難者数調査&報告）

各温泉旅館へポスター・バッチ配り

祭用うちわまとめ

五円玉のお守り作り

配給の手伝い

仕事：カラオケ巡回バスの周知

→どのようにしたら大熊町避難者の方々に知ってもらえるのか？

・配給の際にチラシを配る

・自治会長（秋元さん）に実際会ってみて話をする

- ・旅館支配人（平賀さん）に会って避難者の方々に話してもらう

- ・気づき

秋元さんに話をきいた時、避難者の方々の具体的な不満、悩みを聞くことができた。避難者の方々に対する理解がより深まった。



写真：原瀧炊き出し場所

2-2. 仮設住宅訪問 <平成 23 年 7 月 29 日、8 月 2 日>

◎仕事中心の研修

なぜか？→仮設住宅に入った避難者の方々に対する効果的な周知方法が明確になっていないから=指示をされない

- ・各住宅へ訪問し一人ひとりに宣伝
- ・とりまとめを行っている人物（キーマン）を見つけその人に宣伝
- ・チラシを貼る（掲示板などに）

- ・気づき

直接仮設住宅に訪問し避難者の方々に話を聞くことで、不満や悩みを生々の声で聞くことができ、秋元さんのインタビューで伺った不満や悩みがより具体的になった。



写真：東部公園掲示板

2-3. 青空市場物販 <平成 23 年 7 月 31 日>

◎仕事中心の研修

なぜか？

→どのようにしたら売れる（利益をあげられる）方法を自分たちで考え、実行していかなければいけないから＝指示をもらわない

- ・声を大きくする
- ・製品の強みを考える（魅力を考える）
- ・視覚的に宣伝する

あまり積極的ではなかった（今後の課題）
取り組めば売り上げがもっと伸びる可能性あり

・気づき

青空市場はとても賑やかでアーケード中心の方で主催者（有名人）の講演会や、トウモロコシ朝食大会を開くなどお祭り要素が強かったように感じた。
物販のイベントでもエンターテインメント性を濃くすれば、お客さんも来やすくなる！



写真：青空市場の様子

2-4. 旅館復旧作業 <平成 23 年 8 月 1 日>

- ・旅館の一階全体が浸水して水浸しになっている状態であった。

◎作業中心の研修

なぜか？→旅館の関係者の方の指示をもらいながら復旧作業をおこなうから。

- ・厨房からの食器類運び
- ・厨房の洗浄
- ・汚れた食器類洗浄

・気づき

被害を受けた現場へ直接赴くことで、自然災害の凄まじさを見て感じる事ができ、さらにそこで復旧作業をすることによって被害の甚大さを身をもって感じる事ができた。

また、その甚大な被害にめげることなくひたむきに復旧に努める旅館関係者の方々の姿を見て、人の心の強さも感じる事ができた。



写真：復旧作業の様子

2-5. 農作業 <平成23年8月2日>

◎作業中心の研修

なぜか？→農家の方の指示をもらって作業を行うから

- ・かぼちゃ磨き
- ・ジャガイモ収穫の手伝い
(ジャガイモ畑の土を柔らかくする作業・畑のうえに散乱した草を取る作業)

・気づき

今回やらせていただいた作業は（少なかったが）、そのどれもがただの単調な作業に見えて実は結構な重労働であることを、身をもって知ることができた。また農家の方と直接話をさせてもらった際に、やはり風評被害に悩まされていることや、雨が降らなすぎてジャガイモ畑の土が硬くなってしまった事、先日の大雨のせいで畑の上に草が散乱してしまった事などの悩みを聞いた。畑の状態は天候によって大きく変化し、作業の内容も変化してしまう。農家の方々は臨機応変に対応しなければいけないので大変。



写真：収穫したジャガイモ

2-6. 仮設住宅訪問（いわき）＜平成 23 年 8 月 10 日～平成 23 年 8 月 11 日＞

◎仕事中心の研修

なぜか？→自分で仮設住宅に住んでいる避難者に自分なりに考えた質問をして
悩みや不満を聞くから＝指示をされない

- ・避難者の方々へインタビュー
(困ったこと、不満に思っていること)

・気づき

今回は、いくつか訪問した仮設住宅のうち印象に残ったところについて気づいたことを述べていく。

高久第一仮設住宅は、薄磯、豊間、四倉、久之浜といったいわき市内で被災した避難者の方々中心の仮設住宅である。困ったこと、不満なことは話す人がいないということが多かった。というのも、入居したのが7月はじめということなのでそんな短期間でコミュニティーが形成されているとは考えがたい。さらにいろいろな地区からの避難者がいるというのも原因に含まれそうである。当然、自治会はできていない。まさにこれからという印象を受けた。

次に高久第9仮設住宅は、楢葉町の避難者の方々が住んでいた。不満、困ったことを聞いてみると、自動車がない人は動きづらいという回答が返ってきた。大型ショッピングセンターが近くにあるということなので、不便ではないと思っていたがそこにいくまでが大変（特にご年配の方々が）らしい。しかし、市でもショッピングバスというショッピングセンターまで行ってくれる

バスを出すなど対応はしているようであるが、バス停が数少ないのでバス停に行くまでが大変という意見も少なくなかった。

更にここの仮設住宅が一番良い仮設住宅という話も聞くことができた。他の仮設住宅より良い設備が整っているということだった。しかし、仮設住宅自体に差をつけてしまうことはいささか疑問である。仮設住宅に差をつける分の

資金を他の保障にあててもいいのではないかと、とも思う。



写真:ショッピングバスのチラシ

2-7. Tシャツ・のぼりデザイン<平成23年8月8日、15日、16日>

◎仕事中心の研修

なぜか? →自分で会津をPRできるようなデザインを考えなければならないから=指示をされない

・のぼり、Tシャツデザイン

・気づき

今回は、いくつか訪問した仮設住宅のうち印象に残ったところについて気づいた。頑張ろう会津というテーマで作成したデザインであったが、デザインを考える過程でやはり会津が頑張るには他地域の人達の応援が必要不可欠だということを、改めて感じた。自分の考えたデザインで少しでもいいから会津を応援する気持ちを、他地域の人達に知ってもらえたらと思った。

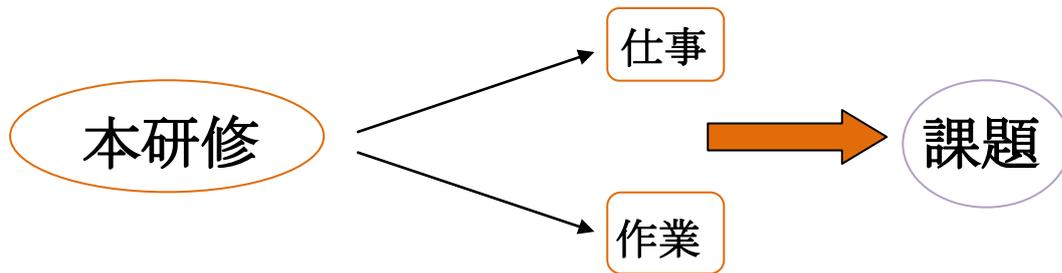


写真:Tシャツデザイン



写真:のぼりデザイン

3. 目的達成度



課題とは？

→作業を仕事に**変える**ことはできないか？

解決策

→言われた後にやる＝作業

言われる前にやる＝仕事

気がきく人・気がつく人になること

最終目標＝自分の役割を見つける

→現時点ではまだ見つからず

原因

→研修全体であまり積極的に自分から仕事を見つけようとしなかったから。

4. まとめ

今回、この研修をうける目的を福島理解と PR から仕事と作業を理解するという目的に変えてしまった事が、少し心残りである。だが、全く福島理解を深められなかったわけではなく、仮設住宅の大熊町の避難者の方々や農家さんの話をするなかで今まで知らなかった福島の現状を知ることができた。

今後は、今回見つけた作業を仕事に変えるという課題の達成をめざしながら、仕事における自分の役割を見つけていけたらと思う。さらに今の福島の現状も周りに伝えていけたらと思う。